



文化まちづくりのすすめ

立誠学区における文化芸術による地域のまちづくりモデル事業活用事例集

平成22年3月

立誠文化のまちプロジェクト運営委員会

立誠自治連合会／京都市



小沢真太郎



はじめに

京都市と立誠自治連合会は、京都市が平成19年3月に策定した「京都文化芸術都市創生計画」のテーマのひとつ「文化芸術によるまちづくり」の可能性を追求するため、平成19年6月から平成22年3月までの間、中京区の立誠小学校跡地施設を拠点に、「立誠学区における文化芸術による地域のまちづくりモデル事業」を実施しました。

この冊子は、モデル事業3年間の取組の成果を「活用事例集」としてとりまとめたものです。この冊子を活用して、より自由により効果的に市内各所で立誠学区に続く「文化芸術によるまちづくり」を実施していただければ幸甚このうえありません。

現代の共同体事情

近年、コミュニティの力が落ちてきていると言われています。最大の原因は人と人との「つながり」の希薄化です。明治以降の近代化は高度に機能化した社会を実現し、所得の増加や医療福祉の飛躍的向上をはじめとした福音をもたらしましたが、反面、都心部や農村部から大規模な人口流出を招き、人々の安心の礎であった「つながり」を奪いました。とりわけ、地域活動を実働面で支えてきた青少年層の流離は、地域社会に致命的なダメージを与えることになりました。こうした世相を象徴するように、総務省の実施する国民生活調査においても昭和54年を境に「心の豊かさ」を求める人々の割合が「ものの豊かさ」を求める人々を上回り、現在までその乖離が進んでいます。

社会の誰もが真の豊かさを実感するためにも、人と人とのつながりを取り戻し、コミュニティの力強さを回復させる仕組づくりが今求められています。

これからのまちづくり

「まちづくり」の目的は、住民が地域に愛着を持ち安心して暮らせる環境を実現することにあります。まちの将来像を左右するのはほかでもない住民の思いそのものです。どのような「まち」にしたいか、「まち」に何が必要であるかを具体的に声にしていく中で、住民としての当事者意識が育まれ、地域の新たな力が生まれます。

21世紀は地域の時代と言われますが、これからのまちづくりは行政等に任せておくのではなく、当事者である地域自らが考え、方向性を見極めながら進めていくことが重要です。また、まちづくりの継続の観点から、特に、若者の地域社会への回帰に力点を置いた取組が望まれます。

文化芸術による地域のまちづくりとは

こうした背景を踏まえながら、まちづくりの新たなスタイルとしての提案が「文化芸術による地域のまちづくり」です。

文化芸術によるまちづくりとは、継続的に行う文化芸術イベントの力を活用して、人と人との時間的空間的共通体験をつくることにより、住民相互や住民と外部とのコミュニケーションをゆるやかに創出し、まち(=コミュニティ)の活性化を図る取組です。つまり、「まち」に対する思いを持った人々による人と人とのつながりの回復、新たなつながりの形成を目指すものなのです。

文化芸術による地域のまちづくりの効果

“地域の人々が参画して文化事業等を継続的に企画・実施し、共に楽しむ。”行為としてはこれだけのことですが、ここには多くの含蓄があります。

運営主体や観客として 地域の方々が顔を合わせること

対面から次のステップの対話につながり、コミュニケーションが活性化していきます。

アーティストやボランティアなど まちづくりの新たな力を得られること

アーティストはこれまでと違った視点からまちを捉え直し、まちに新たな価値を付与します。ボランティアスタッフは継続的な活動が地域への愛着を生み、今後のまちづくりの戦力としての活躍が期待できます。

まちににぎわいが生まれること

イベントが人を呼び込み、新たな人の流れが生まれます。

地域の文化資源の再評価につながる

歴史上の人物、特産品、建造物等の地域の文化資源は、地域の方々が愛着を持ってこられたものです。これらは、地域の意識の喚起から一体感の醸成まで非常に効果的です。そこからさらに当該資源の再評価にもつながっていきます。

このように、「文化芸術によるまちづくり」の推進は、人のつながりを回復すると同時に自分たちのまちの再発見の機会になるなど、まちが活気を取り戻す大きなきっかけとなります。

まちの方々がひとところに集い交流し、アーティストがまちに新たな息吹を吹き込む。こうして生まれたまちの魅力が吸引力になってさらに人が集まってくる。継続して実施すれば、徐々にかかわる人もふえていく。すばらしい取組だと思いませんか。



立誠・文化のまちプロジェクト

「立誠・文化のまちプロジェクト(正式名称:立誠学区における文化芸術による地域のまちづくりモデル事業)」は,文化芸術を活用したまちづくりが地域活性化の有力な手段となることを実践的に検証するため,中京区の立誠自治連合会と京都市の協働プロジェクトとして平成19年度から3年間の期限を設けて実施しました。

立誠学区について



写真提供 国際総合企画(株)



立誠学区は,北は三條通,南は四條通,東は鴨川,西は寺町通に限られた区域です。

中央に位置する河原町通を境に,西側には寺町通と新京極通,東側には高瀬川が流れる木屋町通と先斗町通が縦貫する古くからの繁華街で,木屋町通に面して元立誠小学校の跡地施設があります。

立誠小学校について

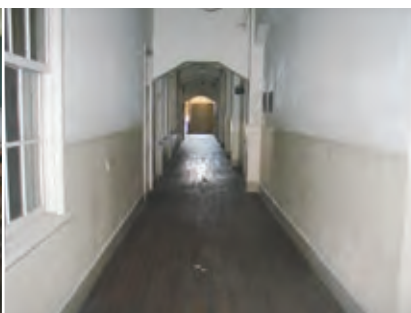


概要

- 明治2年(1869年)下京第6番組小学校として開校
- 昭和2年に現在の場所に移転
- RC造3階建て
- 設計・施行:京都市営繕課
- 少子化から平成5年3月閉校

現在

- 高倉小学校の第二教育施設
- 地域の会合,京都市事業等で使用



立誠学区(木屋町界隈)の課題

我々にとっては日々の癒しの歓楽街も住む側にとっては課題の山。不法駐輪や深夜暴走、客引き、暴力、違法看板など問題がたえません。

こうした諸課題に対し地域もただ手をこまねいているだけではなく、月2回「防犯パトロール」を実施したり「まちづくり委員会」を設置するなど、住みよい環境づくりに向け日々努力を重ねています。



立誠学区の地域文化資源

高瀬川



江戸初期から大正中期にかけて大阪と京都の物流幹線でした。1611年、京都の豪商・角倉了以によって開削されました。川沿いの桜は地域のシンボルです。

日本映画発祥の地



1897年(明治30年)京都電燈株式会社の中庭(現在は小学校グラウンド)にて、日本で初めて映画の試写実験が行われました。

幕末史跡



小学校の敷地は土佐藩邸跡にあり、周辺には坂本龍馬や新撰組等に関わる幕末史跡が数多く存在します。

運営体制

立誠・文化のまちプロジェクト運営委員会

自治連合会、市連携による意志決定組織。事業内容、運営方針などプロジェクトに関わるすべての事案について月1回のペースで協議を重ねてきました。



地域の文化資源を活かして、多彩な文化イベントを実施しました。

地域資源を活かした取組

地域の催しにも厚みが出てきました。



高瀬川桜まつり

高瀬川沿いに咲き誇る桜並木とともに春の到来を祝する催しです。



高瀬川夏まつり

古都の情緒溢れる高瀬川を後世に伝えていくことを目的に実施しています。



高瀬川彫刻展

高瀬川の新たな魅力を引き出そうと、毎年30点の現代彫刻を展示しています。



浴衣着付けと歴史めぐり

文化ボランティア※巻末参照を活用して、浴衣の着付けと木屋町界隈の歴史講座を実施しました。



りっせいキネマフェスタ京都

「日本の映画発祥の地」である立誠小学校跡地をPRしていくため実施しました。



まなびや

地域の文化芸術祭。閉校となった立誠小学校を「2日間だけ蘇らせる」をスローガンに始まりました。



木屋町アートステージ

歓楽街の立地を活かしたストリートパフォーマンスイベント。



卒業記念写真展

立誠校124年の歴史の縮図。歴代の卒業写真を展示しています。



立誠寄席

地元出身の芸人による企画公演。落語・漫才・マジック・大道芸など多彩なステージが繰り広げられます。

新しい人の流れをつくる取組

木屋町の客層にも徐々に変化が生まれています。



木屋町クラシック

京都市交響楽団出演。中高年層を中心に質の高いクラシック音楽をじっくり楽しんでいただきました。



演劇公演

京都の若手劇団による演劇公演を実施し、20～30代の若い女性が数多く訪れました。



芸術系大学作品展

市域の芸術系大学10大学の合同作品展。学生やアーティストなど多くの若者が集まりました。



立誠音楽祭

木屋町周辺には多くのライブハウスが立地します。地元のジャズミュージシャンも登場しました。



共催事業

外部からの持込み事業でプロジェクトの主旨に沿うものについて共催事業として受け入れました。年間を通じたにぎわいづくりに大きく貢献することになりました。



最大の成果はネットワークの拡大!

平成19年の事業開始以降、主催事業、共催事業を介して、アーティスト、タレント、マスコミ、文化ボランティアなど多くの方々が立誠校を訪れました。イベントの実施相談やマスコミの取材依頼など外部からの問合せも盛んになってきました。

イベント開催を通じて地域に愛着を持つ外部の方も増えてきました。
地域の祭りに若い顔ぶれが増えてきました。

このように外部の力をうまくとりこんで、新たなまちづくりの力にする手法は有力な手段です。



■ サポートボランティア(会場監視)

■ 実演ボランティア(南京玉すだれ)

■ サポートボランティア(受付・案内)

■ 実演ボランティア(新舞踊)

■ 実演ボランティア(フラダンス)

文化芸術によるまちづくりのために

京都市文化ボランティア制度

文化芸術によるまちづくりにあたり、皆さんに活用していただきたいのが
「京都市文化ボランティア制度」です。

この制度は、市民、芸術家、企業の皆さんに様々な形で
文化芸術活動に参加していただくというものです。

現在約480件のボランティアの登録があり、クラシックコンサートや
展覧会から地域の祭りまで年間60~70のイベントで御活躍いただいております。

今回のモデル事業でも、3年間で多くの文化ボランティアさんに御活躍いただきました。
「実演ボランティア」「サポートボランティア」ともに文化芸術によるまちづくりの
貴重な戦力として欠くことのできない存在になってきています。

問合せ先

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地

電話:075-366-0033 FAX:075-213-3181

京都市印刷物第214700号
発行 京都市文化市民局文化芸術企画課

